

個人ばく露モニタリング：評価〔最大許容濃度〕

環境・健康

短時間のばく露で発現する刺激等の生体影響がある有害物質取り扱い作業者の体外ばく露濃度の測定結果は、日本産業衛生学会が勧告している最大許容濃度あるいは米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が提言しているばく露限界値（TLV）の上限値（C）により評価します。

日本産業衛生学会が勧告している最大許容濃度の定義を下記に示しました。なお、許容濃度等を用いて評価する場合は、許容濃度等の性格および利用上の注意などを十分に理解したうえで行う必要があります。

最大許容濃度の定義

最大許容濃度とは、作業中のどの時間をとってもばく露濃度がこの数値以下であれば、ほとんど全ての労働者に健康上の悪い影響が見られないと判断される濃度である。

一部の物質の許容濃度を最大許容濃度として勧告する理由は、その物質の毒性が、短時間で発現する刺激、中枢神経抑制等の生体影響を主とするためである。

最大許容濃度を超える瞬間的なばく露があるかどうかを判断するための測定は、厳密には非常に困難である。実際には、最大ばく露濃度を含むと考えられる5分間程度までの短時間の測定によって得られる最大の値を考えればよい。

kes サポート

| 課 題 | kes サポート |
|-----------|---------------------------------------|
| 体外ばく露量の把握 | 個人ばく露モニタリング (時間加重平均濃度の測定、経時的濃度の測定) |
| 体内ばく露量の把握 | 生物学的ばく露モニタリング (生体試料中有害物質・代謝物等の測定) |
| 体外ばく露の情報 | 作業環境測定 (作業環境の管理区分) |